

「顧客に選ばれるために」 神鋼鋼板加工の挑戦！



4号レーザ定盤の一部スペースを常に「短工期」に対応に確保



水上 社長

国内高炉製厚板で橋梁や建築鉄骨向け切板生産を手掛ける、いわゆる「建材型」の高炉メーカー系シャ

は、厚板溶断業界の大手クラスと位置付けられる。工場には親会社から搬入される広幅長尺厚物母材を大量に常備できる置場スペース

鉄骨小物切板の納期順守、即納、二次加工

顧客層も橋梁メーカーや匠性が高い建築構造物の増

独立系の台頭、著しい

人手不足がかつての数量に
戻る期待は薄い。

ただ、橋梁需要が構造的に落ち込み、橋梁向け切板だけで安定的かつ恒久的に事業収益を確保し続けることが困難になりつつある。それが困難になりつつある。それが鉄骨向けでカバール

型・厚物の変種変量・即納
ニーズに応え、必要に応じて着手した。

その一方で鉄骨向け切板を得意とする独立系一般シヤの中には、ここ数年来て、それを成長の糧として、それを成長分野では、備増強を手掛け、二次加工も含めた複合二貫体制を整えながら成長を遂げた事例が何社もある。

「短工期 全社一丸で

関東地区における神戸製鋼所直系の神鋼鋼板加工（社長・水上孝一氏は、こう

全社横断プロジェクト、着々と

Sフアブと称される建材大加や建設工期そのものの短手を中心で、高炉メーカー縮傾向などによって鉄骨向と需要とのサブライチエーションを構築し、主にプロシエクト物件を手掛けることを特性とする。



小物切板製品群

には各部署が横断的に連携し、全員参画のもと全社横断的に取り組む必要性を認識し「超短工期特別

PJ推進へ①色彩表示自動化②業務の同時並列処理社にとっても何らかのヒントになるかもしれない。

彼らは機を見てSフアブ望を見据え、鉄骨向けで台頭してきた同業の動きも捉えながらCS向上に向けた小物・小ロット切板の納期対応力や二次加工対応力の強化が自社の受注促進とともに付加価値向上による収益力の拡大につながるかと判断し、これを実現する

ファイバーレーザが鍵

PJ推進へ①色彩表示自動化②業務の同時並列処理社にとっても何らかのヒントになるかもしれない。

現在の、4本柱の各項目で具体的な活動に取り組んでおり、ソフト&ハード両面でさまざまなアイデアや知恵を出し合い、DX技術なども活用しながら成果に結び付けている。